

0-1 関係詞が使えないと...

— 子供の英語でよいのですか？

1 関係詞の基本メカニズムは2文の結合

関係詞（関係代名詞と関係副詞、さらに関係形容詞）そのものには意味（訳語）はありません。かつては漢文の訓読にならって「ところのもの」などと言っていたことがあります。基本的に**関係詞の働きは2つの文をつなげるだけ**です。例えば、

「彼女には彼氏がいます。その彼氏はフランス語が話せます」
のように言うことにはなんら問題はありません。

ただし、このような言い方は明らかに小学生、ないしは日本語を習いたての外国人が話すような、間違いではないもののきわめて幼稚な響きがするはず。少なくとも大人ならわざわざ2文にしなくても、

「彼女にはフランス語を話せる彼氏がいます」
と、さっとこのように1文で表現するのではないのでしょうか。このような場合に使うのが関係代名詞です。つまり、**関係詞を使えないと子供の話すようなカタコト英語になってしまいますが、関係詞を用いることができれば洗練された大人の英語を話すことができるようになるわけ**です。逆に言えば、会話であれ新聞記事であれ、インターネット上のウェブサイトであれ、大人を対象としている英語においては関係詞が登場しないものはまずないのです。関係詞を使いこなすことは受験英語などではなく、大人の英語を話したり、読んだりするのに欠かせない必須事項と言えるでしょう。

2 「関係詞」、本当の名前は「接続代名詞」？

先ほどの日本語を関係代名詞を用いて英語で表すとこうなります。

She has a boyfriend **who** can speak French.

この典型的な関係詞を用いた文を用いて、関係詞の基本概念を探りましょう。実は関係詞を用いた文は、すべて2つ（以上）の文が結合

したものです。文という2台の車両が、関係詞という連結器によって結合したものと考えていただければいいでしょう。

確認のために、上の文を2つに分解してみます。

① She has a boyfriend.

② The boyfriend can speak French.

先行詞となる名詞（ここではboyfriend）はそれぞれの文に登場している**2文の共通要素**となっていることを確認しましょう。関係詞の場合、その**2文の共通要素が1つは先行詞となり、もう1つが関係代名詞に言い換えられる**と考えてください。

ところで「関係代名詞」という名前でおわかりのように、「代名詞」とは名詞の代わりをするものです。特に英語では一度登場したものは二度目では繰り返さず、代名詞や別の表現に変えるのが原則です。実際The boyfriendを普通の代名詞で表すなら、もちろんHeです。

→ He can speak French.

ところが、このHeのような普通の代名詞（人称代名詞と呼びます）には、2つの文をくっつける働きはありません。

そこで、その**普通の代名詞に2文をつなげる接着剤のような働きを加えたものが「関係代名詞」**なのです。

ここではHeにあたる関係代名詞はwhoです。では、そのwhoを使って分解した今の文を改めて結合してみましょう。

① She has a boyfriend.

+

② The boyfriend can speak French.

1. 共通要素である①のa boyfriendを先行詞として、その後ろに②以下の文をつなげる

2. ②のThe boyfriendは、ただの代名詞ならHeだが、2つの文をつなぐ関係代名詞が必要なのでwhoに変える

→ who (= the boyfriend) can speak French

3. who以下を①のboyfriend以下にくっつける（完成！）

→ She has a boyfriend who can speak French.

こう考えると、whoは代名詞でありながら、2つの文を結びつける

接続詞のような働きを持っていることがわかりいただけると思います。実際、前にカンマのある用法の場合（非制限用法と呼びますが、第2章でさらに詳しく扱います）、いっそうはつきります。

- We decided to employ the woman, who spoke good English.
「我々はその女性を雇用することにしたが、（それは）その女性が英語が達者だったからである」

= We decided to employ the woman, since she spoke good English.

これで明らかなように、関係代名詞 who は接続詞（ここでは、内容的に理由 = since）と代名詞（she）を兼ねたものに相当します。つまり、

関係代名詞 = 接続詞 + 代名詞

これでわかりのように、関係代名詞とは、「2つの文をつなぐ接続詞の働きを持つ代名詞」、いうなれば「**接続代名詞**」と呼ぶ方がその実態にかなっている気がしないでしょうか？

3 Relative Pronounのrel-は「連結」

では、「関係代名詞」の「関係」という日本語はどこから来たかという点、Relative Pronounのrelativeを「関係」と訳したことがその由来です。rel-は語源的には、「連結」を表す語幹です。（運動会のリレー競争（relay）は、バトンを渡すことで二人の走者が「連結」します）

「2つの文を関係づける」という点では間違いではないのですが、一見、その正体がわかりにくい訳語とも思われます。本来の意味を考えれば、まさに「**接続代名詞**」または「**連結代名詞**」とも呼ぶ方が実態にかなっています。いまさら「一人文法用語改正運動」をしても始まりませんが、「関係代名詞」という用語からは見えてこない正体が、こう言い換えることで垣間見えてくるのではないのでしょうか？

まとめ

- 「**関係代名詞**」とは、**2つの文をつなぐことのできる代名詞**。
「**接続代名詞**」と呼ぶ方が実体にかなっている。

0-2 “フィーリング読み”の限界

—— 単語だけ並べれば何とかなる？

“拾い読み”をすると...

小手調べにまず次の文を日本語に直してみてください。

- All the people in Iraq want is peace and security.

* security 安定

いかがでしょうか？ 「すべてのイラクの人々が欲しているのは、平和と安定だ」(×)とやってしまった方はいらっしやらないでしょうか？ 残念ながらこれは完全な誤訳です。正解を示しますと

「イラクの人々が欲しているのは、ただ平和と安定だけだ」(○)

どうしてこうなるのか、いまだにすっきりしない方もいらっしやるのではないかと思います。この英文の基本構造は次の通りです。

▶ All \wedge [the people { in Iraq } want ●] is peace and security.
S (名詞) \rightarrow that = 関係代名詞 V C

上に示したように、この文の主語はAll the people in Iraqではなく、Allです。Allはここでは「すべてのもの」という意味の名詞です。「**すべてのイラクの人々**」と考えた時点で間違いなのです。その後ろにthe people in Iraq wantが名詞Allの意味を説明しています（上図の \wedge に示した部分に関係代名詞thatを補うことができる構造です。これについてはp.064以下で詳しく説明します。●の箇所は本来あるべきwantの目的語が欠けていることを示しています）。構造に即して直訳した後に意識をすると、上掲の訳になります。

「イラクの人々が欲しいすべてのものは平和と安定である」(直訳)

⇒「**イラクの人々が欲しているのは平和と安定だけだ**」(意訳)

「すべての人々」が完全な誤りなのは先ほど申し上げた通りですが、日本語はそれなりに通るので余計に注意が必要です。ちなみに、誤訳の例である「すべてのイラクの人々が欲しているのは、平和と安定だ」に対する英訳はどうなるかというと、